

2008年度 第86回 関西学生サッカーリーグ（第2節）

4/12（土） 山城総合運動公園太陽が丘陸上競技場

第1試合 同大 vs 近畿大

中盤にタレントを揃える両校の戦い。ショートパス主体のスタイルも似通っており、拮抗した試合序盤となった。状況が一変したのは前半31分に近畿大が退場者を出してから。「メンバーチェンジも考えたが、誰を変えようかが難しかった」（近畿大・田中幸雄監督）と大きく動かなかった近畿大に対し、「楠神（順平・MF10）さんとのコンビで左サイドを崩しにかかった」（同大・左SB⑩林佳祐）同大は数的優位を活かす。先制点は、その林が演出。左SBながらエリア内までドリブルで決めてクロス。ファーサイドでMF 29 徳丸敬紘がダイビングヘッドで合わせて先制。

その後、近畿大もMF⑦枝本雄一郎のドリブルなどでカウンターを仕掛けたものの、同大GK①川原隆広が好セーブで凌ぐ。終盤同大は、交代出場のFW⑭北森陽介とFW⑬角島康介が追加点を叩き込み勝負を決めた。近畿大は終了間際に1点を返したものの時既に遅し。「内容には不満」（同大・望月慎之監督）は残るものの、同大が連勝スタートを切った。

（文：サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ）

同大 3 { 0-0 } 1 近畿大
3-1

得点（アシスト）者

得点（アシスト）者

54分 徳丸（林）

89分 山口

84分 北森（楠神）

89分 角島（林）

第2試合 関西大 vs 大教大

ボールを支配したのは関西大だったが、この日の大教大は手数をかけずに有効な攻撃を繰り返した。前半の決定機は大教大に多く訪れたがフィニッシュが決まらない。試合が動いたのは前半38分。個人技に優れる関大は、FW⑩金園英学がドリブルで左サイドを突破し、中でMF⑧稲垣侑也が合わせて先制。

しかし、「開幕戦は緊張したが、この日は落ち着いていた」（大教大・入口豊監督）大教大は、後半開始から9分で逆転に成功。2点ともに、FW⑨森原慎之佑の冷静なシュートによるものだった。「逆転されて、一度は落胆した」（関西大・MF 21 大屋翼主将）関西大だったが、この日のチームを救ったのは金園の強引なまでの突破力。バランスの良い大教大の守りを個人で打破。後半34分に同点ゴールをアシストすると、40分にはドリブルで相手を切り裂き、エリア外から豪快な一撃。遂に試合を引っ返し、勝利に導いた。この日指揮を執った関西大の島岡健太コーチは「相手を研究し過ぎたことが逆効果になった」と反省の弁。しかし、全国を視野に入れる関西大は、苦しくとも勝ち点3を得る底力を見せた。

（文：サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ）

関西大 3 { 1-0 } 2 大教大
2-2

得点（アシスト）者

得点（アシスト）者

38分 稲垣（金園）

48分 森原（佐藤）

79分 藤澤（金園）

54分 森原（田代）

85分 金園



写真提供：関大スポーツ



写真提供：関大スポーツ

4/12（土） 山城総合運動公園太陽が丘陸上競技場B

第1試合 びわこ大 vs 京産大

開幕戦白星スタートを切ったびわこ大・松田保監督が「完敗です」と試合後口にするほど、京産大が圧倒的得点4-0と完封勝利収めた。京産大は2トップの一角を入れ替え、昨年までFWとして出場していたMF⑩宮脇雄嗣を右サイドに起用。この采配が当たり試合開始早々、宮脇が右サイドを突破し、初先発のFW⑩小笠原侑生が先制弾を決めた。この得点が京産大に勢いをもたらし、前半24分にはまたも小笠原が追加点を上げ2-0。びわこ大は反撃出来ないまま、前半を終える。

後半でも京産大の勢いは止まらず、開始3分にはDF⑮濱田太一が3点目を奪い、びわこ大を引き離す。一方びわこ大は右サイドを完全に崩され、攻撃陣もかみ合わず苦しい局面に立たされる。その後、2アシストを決めている宮脇がダメ押しのゴールを決め、試合を決定付けた。

完全勝利に京産大の古井裕之監督は「今日は攻撃、守備、全てハマった良い試合」と選手たちを称えた。開幕戦の課題であった2トップのバランス、サイドに新しい選手をスタメン起用したことで攻撃陣がかみ合った。敗れたびわこ大・船津主将は「やりたいことが全部できなかった。」と肩を落とした。次節の相手・立命大が苦手とする持ち味のカウンターサッカーに加え、現在練習中のつなぐサッカーもぜひ見て

（文：フリーライター 久住 真穂）

びわこ大 0 { 0-2 } 4 京産大
0-2

得点（アシスト）者

5分 小笠原（宮脇）

24分 小笠原（宮脇）

48分 濱田

62分 宮脇（金本）

第2試合 大院大 vs 立命大

大院大 2 $\left\{ \begin{array}{l} 1-2 \\ 1-0 \end{array} \right\}$ 2 立命大

得点(アシスト)者

32分小野

64分四ッ浦

得点(アシスト)者

5分宮尾(福本)

42分玉林(宮尾)



写真提供：立命スポーツ

勝ち試合を逃した立命大、粘りで追いついた大院大。終始、立命大ペースで進んだ試合は、2-2と引き分けに終わった。

先制点を挙げたのは立命大。試合開始5分にMF⑧福本尚純のパスからエースFW⑦宮尾勇輝が今季初得点を決めた。32分にはDFのボールをカットした大院大・FW 60 小野真国が同点弾をあげ、一度は追いつくものの、前半終了間際に宮尾から受けたパスをFW⑩玉林郷が決め、2トップが得点を取り、仕事を果たした。前半は立命大が2-1とリードし終了。後半でも立命大が試合を支配するが、徐々に大院大もパスが回ります。そして後半19分、ゴール前の混戦から交代で入った大院大FW 53 四ッ浦寛康がヘディングで決め、同点に持ち込んだ。

立命大優位に進んだ中で数少ないチャンスをものにした大院大。一瞬の隙を突き、素早いカウンターでゴールに結びつけるのはさすがだ。一方、立命大は2戦連続引き分け。1部復帰後、負けていないことは大きい。だが「失点はミス、過信」と語る米田隆監督。2試合とも失点しているため、次節びわこ大相手に無失点で抑えたい。

(文：フリーライター 久住 真穂)

4/12 (土) 高槻市立総合スポーツセンター

第1試合 関学大 vs 姫獨大

初戦、阪南大に無得点で引き分けた関学大と、桃山大に敗れながらも手ごたえをつかんだ姫獨大との対戦。関学大はスタメン起用の1年4人の1人FW 28 阿部浩之が8分、左サイドMF⑭出口義隆のクロスをヘッドで合わせあっさり先制した。追う立場の姫獨大だが、昌子力監督曰く「素人かと思った」という、自信もなく腰が引けたような戦いぶりで、関学大に試合を完全支配される。阿部のFKなど多彩に攻めたる関学大も、FW⑪桑原透記のシュートがポストを叩くなど追加点を奪えないまま、前半終了。

ところが監督からの檄が効いたのか、姫獨大は後半見違えるようにボールが回り始め、互角の展開にまで引き戻す。そしてFW②松本祥吾にシュートチャンスが二度三度と訪れるが決められない。しかし後半24分、「残しておいたFW(昌子監督)」40 河野大星が登場するとダイナミックな動きで流れを変え、37分にDF②田原広規のクロスから同点ヘッド。しかし直後に関学大MF 25 高橋宏次郎のゴールを浴びて万事休すと思われたが、終了間際に河野のヘッドで再び追いつき、姫獨大は喜びの昇格後初の勝ち点ゲット。関学大はまたもドロー、悔やまれるロスタイムとなった。

関学大 2 $\left\{ \begin{array}{l} 1-0 \\ 1-2 \end{array} \right\}$ 2 姫獨大

得点(アシスト)者

8分 阿部(小関・出口)

83分 高橋

得点(アシスト)者

82分 河野(田代)

89分 河野(原田)



写真提供：関学スポーツ



写真提供：関学スポーツ

(文：サッカーライター 貞永 晃二)

桃山大 1 $\left\{ \begin{array}{l} 1-0 \\ 0-1 \end{array} \right\}$ 1 阪南大

得点(アシスト)者

44分 斉藤(加門)

得点(アシスト)者

76分 魚谷(淵木)

第2試合 桃山大 vs 阪南大

強風の高槻。風上の桃山大がロングボールで阪南大DF背後を狙う。付き合う形で阪南大もセーフティなプレーに終始し、中盤が省略される場面が多く、ともに流れからはチャンスが生まれない。気持ちが入ったゲームは激しいコンタクトでファウルも増え、ともにチャンスはセットプレー頼りとなった。そしてロスタイム、桃山大はMF⑦加門亮平のパスを新人 29 斉藤達也が決め先制。阪南大はスローインの一瞬のスキを高校選手権4強・高川学園のFWに突かれた。

後半、「攻撃で変化をつけられる(松本直也監督)」⑭宮澤龍二を前半の負傷で失い苦しむ桃山大に対して、⑦小寺優輝を中心にMFの構成力で優る阪南大がペースを握り、⑪木原正和が「速さ」を活かしてシュートを放つが決まらない。桃山大もFKのチャンスを機にカウンターに活路を見出そうとするが、風上も利して阪南大が優勢を維持する。そしてついに76分、「交代させるつもり(須佐徹太郎監督)」のFW⑩淵木達也がヘッドで流したところを途中出場のFW30 魚谷尚弘が、見事に決め同点とした。逆転を狙う阪南大は木原が三度チャンスを迎えるが決められず、初勝利を逃した。桃山大は粘り強い守備でなんとか勝ち点を拾った印象だ。

(文：サッカーライター 貞永 晃二)